

平成21年6月30日現在

研究種目：基盤研究(A)
研究期間：2005～2008
課題番号：17202015
研究課題名(和文) 朝鮮総督府文書を中心とした旧植民地関係史料の共用化に関するアーカイブズ学的研究
研究課題名(英文) The Archival Study for The Documents of a Government of Chosen under the Japanese Colonial Rule
研究代表者
加藤 聖文 (KATO KIYOFUMI)
国文学研究資料館・文学資源研究系・助教
研究者番号：70353414

研究成果の概要：

米韓を中心とした海外での所在調査を行い、特に、米国立公文書館所蔵北朝鮮捕獲文書の概要目録を完成させた。また、京城帝国大学関係者を中心とした在朝日本人の口述記録の収集を行った。この他、朝鮮関係者の個人文書(守屋栄夫文書・サハリン残留韓国人帰還運動資料等)の収集整理によって、仮目録を完成させた。これらの成果は、2008年11月に東京で行われた国際シンポジウム「帝国支配とアーカイブズ」で発表された。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2005年度	11,800,000	3,540,000	15,340,000
2006年度	8,900,000	2,670,000	11,570,000
2007年度	9,300,000	2,790,000	12,090,000
2008年度	8,000,000	2,400,000	10,400,000
年度			
総計	38,000,000	11,400,000	49,400,000

研究分野：史学

科研費の分科・細目：史学・史学一般

キーワード：日本史, 東洋史, 情報システム, 国際貢献, アーカイブズ

1. 研究開始当初の背景

日韓両国間で歴史認識問題が懸案となるなか、歴史認識問題を話し合う前提として、歴史資料(アーカイブズ)の共用化と資料情報の共有化が議論されていない現状を踏まえて、アーカイブズ学の立場から何らかの貢献を図ろうとして企画された。

2. 研究の目的

日韓歴史認識問題解決のために重要な歴史資料を日韓両国の研究者が相互に利用できるための基礎的情報の収集と公開、さらには歴史資料構造の分析、さらには利用モデルの開発を目的とした。

3. 研究の方法

(1) 韓国など外国人研究者と共同で、国外（米・韓・台・中など）に所蔵される朝鮮関係及び植民地支配に関わる歴史資料の所在調査を行い、所在情報をデータ化する。

(2) 日本国内の研究者らと共同で、全国都道府県に点在する朝鮮および旧植民地関係史料の悉皆調査を行い、情報の基盤を整備する。また、貴重史料のマイクロ撮影を行う。

(3) 調査の過程で判明した個人資料の受入と整理・保存措置・公開を行う。

(4) 在朝日本人を中心とした植民地関係者からの口述記録を収集し、公開する。

(5) 以上のような調査収集を通じて、情報基盤の整備を図った上で、資料そのものの構造分析を行い、資料の性格や特徴を明らかにする。

4. 研究成果

(1) 朝鮮総督府官僚守屋栄夫文書（約18,000点）および満洲国官僚松田令輔文書（約1400点）、サハリン残留韓国人帰還運動関係資料（約150点）の寄贈を受け、整理の上、仮目録を作成して国文学研究資料館において公開を行った。また、韓国国史編纂委員会との間で守屋栄夫文書の日韓共同研究の準備に取りかかった。

(2) 京城帝国大学関係者・京城女子師範学校関係者・城津会関係者らに在朝日本人および在満洲日本人らの口述記録収集（32件）を行い、国文学研究資料館においてデータの公開を行った。

(3) 佐賀県立名護屋城博物館所蔵森脇英士警察資料および佐野市郷土博物館所蔵須永文庫の須永元日記等文書資料のマイクロ撮影を行い、国文学研究資料館において公開した。

(4) 米国立公文書館所蔵 Captured Korean Documents（朝鮮戦争時に米軍が捕獲した北朝鮮政府文書）の全 Box の調査を行い、概要目録を完成した。

(5) 米国議会図書館所蔵善生永助資料のデジタル撮影を行い、あわせてワシントン会議陸軍随員文書の概要調査および一部デジタル撮影を行った。

(6) ハワイ大学マノア校図書館所蔵の梶山

コレクションおよび中樞院文書の悉皆調査を行い、関係資料のデジタル撮影を行った。また、パシフィックコレクションにおいて南洋庁文書のデジタル撮影を行った。さらに、韓国研究センターにおいてマッキューン文書の概要調査を行った。

(7) スタンフォード大学フーバー研究所およびカルフォルニア大学バークレー校東アジア研究所において旧植民地関係資料の概要調査を行い、関係資料のデジタル撮影を行った。

(8) 釜山広域市立図書館において領事館文書等日本関係資料のデジタル撮影を行った。

(9) 済州島平和博物館において植民地期資料の概要調査と関連資料の収集を行った。

(10) 益山地域での地方調査を行い、農事公社所蔵古阜水利組合文書の概要調査を行った。

(11) 国史編纂委員会において京城地方検察局文書・中樞院文書など朝鮮総督府関係資料の収集を行った。

(12) 韓国国家記録院において朝鮮総督府文書の概要調査および関連資料の収集、および現物からの紙質調査を行った。また、国家記録院発行の解題目録の翻訳（2巻分）を行った。

(13) 最終年度に日韓台三ヶ国の研究者（韓国国史編纂委員会・台湾中央研究院台湾史研究所）による国際シンポジウムを開催し、現時点での情報共有化を図った。また、このシンポジウムを基に論文集の編集を進めている。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 5 件）

① 加藤 聖文 「海外引揚問題と日本人援護団体—戦後日本における帝国意識の断絶—」, 小林英夫他編『戦後アジアにおける日本人団体—引揚げから企業進出まで—』, ゆまに書房, 2008, 査読有, pp. 51-83

② 加藤 聖文 「日露戦争と帝国の成立—満洲経営の内的矛盾—」, 東アジア近代史学会編『日露戦争と東アジア世界』, ゆまに書房, 2008, 査読有, pp. 171-192

③加藤 聖文「植民地官僚の形成と交流—関東州・満洲国・拓務省の役割—」, 松田利彦編『国際シンポジウム第30集 日本の朝鮮・台湾支配と植民地官僚』, 国際日本文化研究センター, 2008, 査読無, pp. 31-46

④加藤 聖文「戦後東アジアの冷戦と満洲引揚—国共内戦下の「在満」日本人社会—」, 『東アジア近代史』第9号, 2006, 査読有, pp. 115-142

⑤加藤 聖文「植民地官庁における文書管理制度—台湾総督府における保存・廃棄・引継—」, 韓国国家記録研究院編『記録史料管理と近代』, 2005, 査読無, pp. 91-140

[学会発表] (計 7件)

①加藤 聖文「植民地官僚の個人文書の発掘と公開の今後—守屋栄夫文書の紹介」, 研究集会 2008「植民地朝鮮で蒐集された『知』の歷程—朝鮮総督府・京城帝国大学関係者の個人アーカイブからの視線」, 2008年12月7日, 九州大学国際ホール

②加藤 聖文「帝国支配をめぐる記憶と記録—在朝日本人の個人文書と口述記録の収集と公開」, 国際シンポジウム「帝国支配とアーカイブズ—日韓台アーカイブズ資源共用化の可能性」, 2008年11月30日, 立教大学太刀川記念館

③加藤 聖文「日本帝国崩壊と海外引揚問題—戦後北東アジア地域における人的移動空間の収縮—」, 日本国際政治学会大会 2008年度研究大会, 2008年10月24日, つくば国際会議場

④加藤 聖文「拓務省と植民地官僚—人事交流システムの実態—」, 第30回国際研究集会「日本の朝鮮・台湾支配と植民地官僚」, 2007年2月13日, 国際日本文化研究センター

⑤加藤 聖文「植民地の記憶都市・福岡—アーカイブズ学の果たすべき役割—」, 国際シンポジウム 2005「植民地研究の展望—日本統治期朝鮮半島を中心として—」, 2005年12月18日, 九州大学国際ホール

⑥加藤 聖文「戦争と支配の記録をめぐる今日的課題—東アジアにおける『歴史認識』の前提—」, 戦後60年記念学術シンポジウム「戦争の記憶とアーカイブズ学—喪

われゆく記憶の再生に向けて—」, 2005年12月17日, 学習院大学北1号館

⑦加藤 聖文「日露戦後における日本の満洲経営—政策と現実の間—」, 東アジア近代史学会日露戦争100周年シンポジウム「20世紀東アジア世界と日露戦争」, 2005年9月24日, 専修大学神田校舎

[図書] (計 4件)

①加藤 聖文『1945年の歴史認識—戦後をめぐる日中対話の試み』東京大学出版会, 2008, pp. 53-80

②加藤 聖文『史料目録第85集 岡山・広島・鳥取県下市町村役場引継文書目録』, 国文学研究資料館, 2007, 229p

③加藤 聖文『満鉄全史』, 講談社, 2006, 266p

④加藤 聖文『検閲された手紙が語る満洲国の実態』, 小学館, 2006, pp. 43-81

6. 研究組織

(1) 研究代表者

加藤 聖文 (KATO KIYOFUMI)
国文学研究資料館・文学資源研究系・助教
研究者番号: 70353414

安藤 正人 (ANDO MASAHITO)
学習院大学・大学院人文科学研究科アーカイブズ学専攻・教授
研究者番号: 90113422

(2) 研究分担者

丑木 幸男 (USHIKI YUKIO)
国文学研究資料館・アーカイブズ研究系・教授
研究者番号: 60223525

(3) 連携研究者

青木 睦 (AOKI MUTUMI)
国文学研究資料館・文学形成研究系・准教授
研究者番号: 00260000

前川 佳遠理 (MAEKAWA KAORI)
国文学研究資料館・アーカイブズ研究系・助教
研究者番号: 30413917

五島 敏芳 (GOTO HARUTOSHI)
京都大学・総合博物館・講師
研究者番号：90332139

林 雄介 (HAYASHI YUSUKE)
明星大学・日本文化学部・准教授
研究者番号：00286246

栗原 純 (KURIHARA JUN)
東京女子大学・文理学部・教授
研究者番号：40225264

松田 利彦 (MATSUDA TOSHIKO)
国際日本文化研究センター・研究部・准教授
研究者番号：50252408

永島 広紀 (NAGASHIMA HIROKI)
佐賀大学・文化教育学部・准教授
研究者番号：50315181

谷ヶ城 秀吉 (YAGASHIRO HIDEYOSHI)
立教大学・経済学部・助教
研究者番号：30508388

辻 弘範 (TUJI HIRONORI)
北海学園大学経済学部・専任講師
研究者番号：20348494